

a 学校教育目標	考え、表現し、自ら伸びる生徒の育成 ～自立・尊重・向上～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立つと志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に「元気」と「感謝」を届ける誇りある学校
----------	---------------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	学力向上を意識した授業改善	主体的な学びを促す授業づくり(PBL= プロジェクト型学習)に係る校内研修の定期的実施 ICT機器の効果的な活用 学校図書館の機能の活用、NIEの導入	①「授業の内容がよく分かりますか」に対する肯定的回答率85%以上。R80は100% ②学力調査(実力テスト等)の結果が全国平均に対し101% 平均点以上の生徒の割合60%以上	1以上	①89.8% 94.6%	①86.2% 92.8%	①101% 93%	B	・授業理解度に係る生徒アンケートの肯定的回答86.2%。 ・R80実施率に係るアンケートの肯定的回答92.8%(生徒90.5%、教職員95.0%)。 ・学力調査において、本校平均は全国平均比92.7%(全国学力84.7%、標準学力88.1%)、全国平均点以上の生徒の割合46.7%。 全学年で学力定着に課題があるが、特に数学と理科を中心に改善が必要である。一方、全国平均を超えている教科が存在することから、教科の枠を超えた学校としての具体的な方策が今後の重点課題である。 ・振り返り活動(R80)が授業内で定着している。授業改善との接続が重要で、想定したR80から逆算した授業づくり、振り返りで見えてきた生徒のつまずきに焦点化した授業改善が必要である。 ・モジュール学習は一定の成果が見られるものの、基礎基本の定着・学び直しが必要である。 ・生徒アンケート結果から、平日の家庭学習時間1時間以上44.1%、0時間14.1%。家庭学習の定着は下半期でより二極化し、学習習慣確立に向けた支援が引き続き必要である。	授業理解度の向上を図るため、次の取組を重点的に進める。 ・各授業において学習のねらいと到達目標を明確に示し、生徒が学習内容を理解しやすい授業構成を徹底する。 ・小テストや振り返りを通して理解状況を把握し、つまずきに応じた補足指導や個別支援を行う。 ・条件付き作文や文章題指導など、教科ごとの有効な取組を共有し、R80を含めた授業理解度の向上を図る。 ・学校図書館の活用、NIEの導入に関して、一層組織的な取組を進める。	○			・全国平均を上回る教科、下回る教科があるということは、教え方の問題と謙虚に受け止め改善していったほしい。 ・理解度のアンケート結果は、肯定的評価が高い。アンケートは全教科まとめて質問しているとのことなので、教科別にとって分析してみるとよい。 ・校区に家庭学習できない生徒がどこかに集まって取り組める公民館のような場所がない。家庭での学習が難しい生徒もいるので、地域でそのような場所を作ることができないかと思う。 ・小中どの教科も積み上げが大事。わからないことが積み重なると、目標をもたせづらくなる。授業でつまずかない生徒を多くすること、つまずいた初期の段階で取り戻すように指導してほしい。 ・何のために学習するのか、宿題は何のためにするのか、ということを大事にしてほしい。また、生徒たちにはもっと読書してほしい。
	基礎学力の定着	・毎時間の授業でのR80の充実 ・モジュール学習の実施と工夫 ・家庭学習習慣の確立			②97.2% 46.7%	②92.7% 46.7%	②91.8% 77.8%			○				
たくましい心身の育成 (自ら考えより良く判断し行動する力)	自己肯定感と自己有用感を高める教育活動	・生徒主体の活動(縦割り掃除・運動会・絆祭等)の充実 ・学級集団作り(学級活動の授業改善) ・命を守る防災教育の実施 ・地域への貢献活動の促進 ・生徒指導委員会、不登校・教育相談委員会の充実 ・生徒アンケート・i-check等による実態把握と組織での早期対応 ・長期欠席・不登校生徒数の増加への対応、取組強化	③「自分には良いところがあります」に対する肯定的回答率85% ④「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思います」肯定的回答率80% ⑤その他生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」についての肯定的評価80%	1以上	③85.3% ④79.2%	③86.4% ④67.8%	③102% ④85%	B	・評価指標に係る生徒アンケートの肯定的回答の割合は、自己肯定感86.4%、地域・社会貢献の意欲、67.8%、学校生活満足度91.0%。 ・年間を通じて運動会や絆祭等の学校行事、総合的な学習の時間等の主体的な学び、部活動や生徒会活動が、生徒の自信や所属感の醸成につながり、自己肯定感を高めたと考える。 ・地域行事に係る掲示板を設置しているが、生徒に関心を持たせ参加意欲の高揚につなげるには折に触れて話題に出す必要がある。	・授業や学校行事等において、共感的な人間関係づくりに重点を置き、協働活動・話し合い等を通じて、生徒に自己肯定感を高める取組を行う。特に、学校行事・生徒会活動等で他学年と交流する機会を作り、生徒同士が互いの頑張りを認め合える雰囲気を作る。 ・校内掲示している地域のたよりの中で、参加可能な行事や体育大会等参加した行事を話題に取り上げる。生徒会執行部・各部活動と連携し、参加可能な地域行事への参加を促す。	○			・地域ボランティア等の機会を増やすのがよいのではないかと。地域に関する意識を校内ではなかなか難しいので、地域に出ていき、アクションを起こすこと。地域の大人と何かで結びつく子どもは変わるのではないかと。メインは学校で、そこに地域を結びつけ巻き込んでほしい。 ・総合的な学習の時間等に生徒が取り組んでいる防災学習やキャリア学習はこんな力につながっていると自覚を深めさせること、アンケート回答時にそれらを想起させることで、取組が数値に現れるのではないかと。 ・地域のボランティアに取り組んでいるのがあるが、ただ、通学路にごみが落ちていたのを拾う子どもにしたいが、まずごみを拾う姿を大人が見せないといけないと思う。
		効率的で組織的な校務運営・業務改善	⑥「第五中学校で働いてよかった」と回答する教職員の割合80%以上 ⑦時間外在校時間 月45時間以内の職員の割合90% ⑧「子どもと向き合う時間が確保されている」と肯定的に回答する教職員の割合85%	1以上	⑥80.0%	⑥95.0%	⑥119%	A	・教職員アンケートで本校への満足度の項目に肯定的に回答した教職員の割合95.0%。 ・定例の校内各種委員会において、主任主事・各分掌・学年部の意見を事前連携・起案することで、教職員の意見を全校の取組に反映。 ・教職員の学びの時間を確保するため、年間計画において水曜日放課後に研修を位置付けた。	・水曜日放課後の分掌会・学年会を通じて協議された教職員の意見を、学校経営会議等の各種委員会に反映し、それを各学年部で共有・周知する毎月のサイクルを徹底する。 ・教職員が生徒の成長に喜びとやりがいを実感できるよう、取組と生徒の成長について職朝・研修等で情報共有の機会を増やす。 ・日常的なコミュニケーションを通じて、風通しのよい職場の雰囲気醸成する。	○			・説明されたように、次年度の取組や行事、日課等の見直しを行って、生徒の教育と先生方の働き方改革を両立させていってほしい。 ・教職に就いている志や、子どもへの力を高めようという熱い力はそのまま持ち続け、作業や業務の効率を上げ、密度を上げて、定時間内に収めるよう努めていただきたいと思う。 ・生徒をくいつかせるための授業の準備や工夫も教員として必要。そのような新たなチャレンジと時間内で業務を終えることのバランスが大事だと思う。
働き方改革の推進	子供と向き合う時間の確保	○校内各種委員会の定例化・活性化、進行管理の徹底と改善 ○ボトムアップによる業務改善の推進、行事等の見直し ○教職員の学びの時間の確保			⑦67.6%	⑦77.1%	⑦86%	B	・時間外在校時間45時間以内の職員の割合77.1%。年平均で時間外在校時間が45時間を超えている教職員8.3%。 ・子どもと向き合う時間の確保に係る教職員アンケート肯定的回答70.0%。 ・委員会や会議を時間割に組み込み、水曜日放課後の時間で年間を通して日課を工夫し、研修・会議等の時間確保に取り組んだ。7割が子どもと向き合う時間を確保できている一方、時間外在校時間が月45時間を超える教職員が固定化。業務見直し、週1日の定時退校等の意識をより高める必要がある。	・学校行事や委員会・会議の精選を行い、ICTツールを用いた情報共有や事前共有を徹底し、業務の平準化を推進することで、生徒と向き合う時間や授業改善の時間を生み出す。また、定時退校日を形骸化させず、互いに声を掛け合う職場風土を醸成する。 ・子どもと向き合う時間を確保を推進し、教職員個々の職能の向上につなげる。 ・週休日の大会引率等の業務を出張にすることを推奨する。年次有給休暇の時間単位取得や長期休業中の連続取得等、各自のワークライフバランスに応じた対応を推奨する。	○			
		働きやすい職場づくりを推進する			⑧90.0%	⑧70.0%	⑧82%							

【j: 自己評価 評価】
A : 100≦(目標達成) C : 60≦(もう少し)<80
B : 80≦(ほぼ達成)<100 D : (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。